

令和7年度 第1回伊勢志摩国立公園地域協議会 議事概要

日時：令和7年7月4日（金）14:00～15:30

場所：三重県営サンアリーナ レセプション室

結果

- アドバイザー（志摩半島野生動物研究会）の追加について了解が得られた。
- ステップアッププログラム 2025 の成果に係る調査について、概ね了解が得られたが、協議会構成員等の満足度が低い理由については今後のヒアリング等で確認することとなった。
- ステップアッププログラム 2030 の検討・作成についても概ね了解が得られたが、保全に関する視点、プロモーションの重要性、ビジョンと行動計画とをつなぐ目標や伊勢志摩独自の指標等について加味しつつ検討を進めることとする。

主な意見

【ステップアッププログラム（SUP）2025 の成果に係る調査について】

- SUP の目的は国立公園における利用促進と保全の実行であるが、利用促進に関しては目標設定やデータ整理が一定程度進んでいると感じる。一方で、保全に関する考察はやや不十分であり、保全すべき対象が明確に示されていない印象を受けた。
- 昨年度実施された「伊勢志摩国立公園ビジョン検討のためのアンケート調査」において、協議会関係者の満足度が低かった理由は、次期 SUP を策定する上で重要な視点であると考えられる。
- 満足度も重要な指標ではあるが、友人等に推奨したいと感じるかという観点からの「推奨度」は、より大切な評価指標であると考えている。
- 伊勢志摩地域における景観は相対的に評価が低く、日本人旅行者においても同様の傾向が確認されている。そのため、今後は「人が介する自然の魅力」を本地域の強みとして打ち出していくことが重要であると感じている。

【ステップアッププログラム（SUP）2030 の検討・作成について】

- SUP は名の通りステップアップしていくことが重要
- 利用の「量」と「質」の両方が重要であり、そのためのプロモーションをしっかりと実施していくことが重要であるといった意識はあるとは思いますが、資料にある「SUP2030」の目次構成案からはその点を感じられなかった。
- 伊勢志摩地域内でこれまで準備・整備を進めてきた資源や取組を、内向きの発信にとどめることなく、空港など地域外と連携して広く外部に対して発信・展開し、投資への回収に入るべき段階だと思ふ。
- 保全活動については、実施そのものは可能ではあるが、それが本当に「保全できた」と言えるのかを示すための調査は難しく、そこがネックになってくると思う。
- 伊勢志摩国立公園の魅力についてプレゼンを行う場合、横山展望台の景観の良さを強調するだけでは不十分。県のプロモーションを担う部署と国立公園の取組の間に連携不足がある。国立公園ビジョンやコンセプト等は関係者で意思統一し、広域DMOやJNTO等に共有し、その世界観を具体的に体感できる一番近い空港として中部国際空港を位置づけることで、効果的なプロモーションの流れが形成できるのではないかと。

- 来年、令和 8 年は伊勢志摩が国立公園に指定されてから 80 年という節目を迎える。そして、あと 20 年で 100 周年（2046 年）を迎えることとなる。伊勢神宮の式年遷宮は 20 年に一度行われる。80 年を機会に 100 年に向かってビジョンを見据えたうえで、SUP の構築・展開を考えていくことが重要ではないか。
- 伊勢志摩国立公園のコンセプトやビジョンを活かすためには、その手前に位置付けられる現実的な目標設定の再構築が不可欠であると感じている。どのような指標・数値を設定すれば、ビジョンの実現に近づけるのか。そのような、将来像につながる計画や体験を見直さなければ、SUP はいつまでも完成しないのではないかと感じる。
- 「SUP2030」では、これまでの積み重ねを踏まえたうえで、伊勢志摩地域独自の指標を少なくとも一つは設けることも必要だと考える。

質問に対し、事務局からの追加説明・補足した点

- 現行の「SUP2025」は、利用促進を主眼に据えて策定された経緯がある。これに対し、新たな「SUP2030」では、全体的な行動計画としての位置づけを明確にしながら構築していきたいと考えている。現時点では、目標設定の根拠となるデータが不足していることから、今後は適切な指標を収集するための手法について検討する必要があると考える。
- 満足度が低い点に関しては、これまで十分に掘り下げた調査がなされていないと認識している。今後のヒアリングの機会を通じて、当該点について補足的な情報を収集したいと考えている。
- 昨年度に策定したビジョンは、10 年から 20 年先の伊勢志摩国立公園の姿を見据えた内容となっている。そのビジョンに沿った形で、関連する行動計画については 5 年ごとに見直し・改定を行っていくが、長期的なビジョン自体はぶれることなく、一貫性をもって推進していきたいと考えている。
- ビジョンに到達するための目標および指標は検討する必要がある。また、伊勢志摩地域独自の指標を作成する場合においても、それを地域独自の調査としてどのように実施するか等含め検討が必要である。